



平成 26 年 11 月 13 日

各 位

会社名 石油資源開発株式会社
代表者名 代表取締役社長 渡辺 修
コード番号 1662
問合先責任者 広報 IR 部長 中本 亮一
電話番号 03-6268-7110

相馬 LNG 基地の建設工事着工について

石油資源開発株式会社（以下、当社）は、福島県新地町（相馬港）にて LNG（液化天然ガス）基地建設、ならびに、本基地に受け入れた LNG の気化ガスを当社幹線パイプラインまで輸送する接続パイプライン建設の準備を進めてまいりましたが、本日 LNG 基地建設工事の起工式を行い、建設工事に着手しましたのでお知らせいたします。

当社は、新潟県・山形県・秋田県で産出する国産天然ガスおよび輸入 LNG の気化ガスを、地元はもとより、新潟・仙台間ガスパイプライン（以下、新潟・仙台ライン）や白石・郡山間ガスパイプライン等の当社パイプライン網を通じ需要家の皆様にお届けするとともに、専用の貨車輸送コンテナやタンクローリーを用いて、LNG を液体のままお届けするサテライト供給事業を展開しております。

当社は、震災後の福島県・宮城県・岩手県など東北太平洋沿岸地域等における今後の天然ガスの需要増に対して、長期安定的に天然ガスを競争力ある価格で供給していくことを社会的使命と考え、相馬港に大型 LNG 外航船を着陸させ、これを LNG タンクで貯蔵し気化する LNG 受入基地の建設と、同基地で気化したガスを、当社の大動脈ともいえる新潟・仙台ラインに（宮城県岩沼市・岩沼バルブステーションで）接続させる約 40 km の新規パイプライン建設を進めてまいります。完成後は、天然ガスの供給安定性と緊急時のセキュリティ対応の面で優れた、強靱なエネルギーネットワークが構築されます。

また、当社は、マレーシア国営石油会社である PETRONAS 社が主導するカナダブリティッシュ・コロンビア州のシェールガス田開発・生産事業および生産されたシェールガスを、パイプラインで同州西海岸プリンス・ルパートまで運び液化（LNG 化）・輸出する事業（Canada Pacific North West LNG プロジェクト）の 10% 権益と、同権益比率相当の LNG を引き取る権利を取得しています。同プロジェクトの液化プラント操業開始は平成 30 (2018) 年末を目標としており、当社は、同プロジェクトで製造される年間 1,200 万トンの LNG のうち 10% (120 万トン) を引取り、平成 30 (2018) 年 3 月に操業開始を予定する相馬 LNG 基地で取り扱う主要な LNG ソースの 1 つとすることで、天然ガス供給ビジネスの一貫操業体制の拡充を図ってまいります。

当社は今後とも、国内外のガス田から生産される天然ガスや LNG を、輸送パイプラインや輸入 LNG 基地などを通じ、確実に需要家の皆様に提供する天然ガスの一貫操業・供給体制（ガスインテグレーション）を着実に推進することで、当社の収益基盤である天然ガス事業を一層強固なものとしてまいります。

【これまでの経緯と今後の予定】

平成 25 年(2013 年) 11 月 27 日 : 相馬 LNG 基地および接続パイプライン建設に関する最終投資決定
平成 26 年(2014 年) 11 月 13 日 : 相馬 LNG 基地起工式
平成 29 年(2017 年) : 相馬 LNG 基地施設完成予定
平成 30 年(2018 年) : 相馬 LNG 基地操業開始予定

【相馬 LNG 基地の概要】

名 称 : 相馬 LNG 基地
建設地点 : 福島県相馬郡新地町（相馬港 4 号埠頭地区）
敷地面積 : 約 20ha
主要設備 : LNG タンク(地上式 23 万 k1×1 基、将来増設可能)、LNG 外航船受入バース、LNG 内航船出荷バース(LPG 内航船受入兼用、将来増設可能)、LNG 気化器 2 基（将来増設可能）、気化ガス用熱量調整設備、LNG タンクローリー出荷設備、ほか
投資金額 : 約 600 億円（接続パイプライン含む）
適用法規 : ガス事業法

以 上

【相馬 LNG 基地概要】

<天然ガスパイプラインネットワーク図>



<完成予想概念図>



<建設予定地（福島県相馬郡新地町 相馬港 4号埠頭地区）>



【相馬 LNG 基地 起工式】

